

かほく市史編さんだより

第10号 令和7年(2025)11月1日



keep for the future
KAHOKU



▲絹本着色聖徳太子影像



▲「太郎兵衛塚村」の記述がある「裏書」

金石「妙覚寺」、江戸中期に 太郎兵衛塚村から移転

『加越能寺社由来上』によると、金沢市金石の妙覚寺は太郎兵衛塚村(現遠塚)にあったことが記されています。6月に寺院調査を行ったところ、聖徳太子影像の裏書には元和4年(1618)に本願寺から「加州河北郡太郎兵衛塚村十五日講中」に送られた記述が認められました。

また、本願寺教如影像の裏書にも寛永11年(1634)「加州河北郡金津庄太郎兵衛塚村妙覚寺常住物也」とあり、記述通り、妙覚寺が太郎兵衛塚村に建立されていたことを確認することができました。



▲妙覚寺

初代住職「長源」によって慶長13年(1608)に現在のかほく市遠塚に建立され、寛保2年(1742)に現在の金沢市金石新町に移転しました。

かほく市史編集専門委員会 古代・中世部会長 ごあいさつ

「かほく市史 資料編 1 古代・中世」刊行に向けて

瀬戸 薫

古代・中世部会は、資料編 8 冊のうちの第 1 冊目として、「資料編 1 古代・中世」を令和 8 年 3 月に刊行予定で、現在編集を進めています。資料編はともすれば文字のみの親しみにくい本になりがちですが、今回は史料を年代順に並べて、要約をつけ、写真・イラスト・コラム等を挿入して、理解しやすい史料集をめざしています。

古代の文献史料は難解なものが多いので、読み下し文と解説をつけます。市域の古代遺跡と出土資料についてのコラムも併載します。

中世は加賀国金津莊きたあがたのぼと北英田保おおしみずのしょう、能登国大泉莊、そして河北郡一向一揆の関係史料が中心です。

中世の終焉(戦国時代の終わり)は、日本中で地域ごとに異なります。加賀国は天正 8 年(1580)の金沢御堂みどうの陥落、能登国は同 10 年の石動山合戦せきどうざん(前田利家軍による焼き討ち)が、その象徴的事件とみられます。かほく市は両国にまたがりますので、天正 10 年(1582)を目安としました。

京都の賀茂別雷か も わけい かづち神社(上賀茂神社)の金津莊関係史料を多数収録しますが、市域の中世遺跡に取材したコラムも掲載します。市域では初めて紹介する史資料も多いので、どうぞご期待ください。

出前講座 ー古文書で読み解くかほく市の歴史ー

8月22日(金) 金津学童保育クラブ

かほく市では職員の専門的知識・技術を生かした講座をお届けする「かほく市出前講座」を実施しています。市史編さん室からは「古文書で読み解くかほく市の歴史」と題して募集を行ったところ、金津学童保育クラブから依頼がありました。大人を対象とした講座を想定していたため、子供たちに理解できるか不安でした。とにかく、本物を見てもらおうと、市所有史料から 7 点を選び伺いました。

村御印(二ツ屋村)や江戸時代の古地図、藩札等、子供たちは専門員の解説に真剣に耳を傾けていました。中には、古文書に書かれている村名や数字を読み取ることができた子供もいました。講座後には「古文書はいつ頃生まれたの?」「昔にも郵便はあったの?」などの質問や「ほとんど読めなかったけど、読めるところもあっておもしろかった」といった感想が聞かれました。少しは、かほく市の歴史に興味を持ってもらえたのではと思っています。今後も市民の皆さんに、編さん事業を通して知り得た内容を還元する場を設けていきたいと考えています。



▲村御印(二ツ屋村)の解説を聞く子供たち



▲藩札に書かれた数字を読み取る子供たち

郷土の歴史を知ろう！「生涯学習講座 歴史学びコース」より

8～10月にかけて4回にわたり「生涯学習講座 歴史学びコース」が開講されました。今回の講座のメインテーマは「近代のかほく市」です。かほく市史編集専門委員で近代部会の4名の方々に、明治から戦後のかほく市の姿について分かりやすくお話していただきました。参加者はメモを取ったり質問したりするなど熱心に聞き入っていました。

○8月9日（土）

◆講師：山本 吉次 氏（元金沢大学付属高等学校校長）
演題：「町・村の変遷と小学校」

明治維新以降、中央集権体制の確立を目指した明治政府により、廃藩置県に引き続き町村制が推し進められました。当時のかほく市域の「町・村」の変容について、年代ごとの町村地図の変化や他地域との違いを示しながら解説されました。また、戸数や人数で画一的に統合されたことへの住民の不満や対立にも触れられました。さらに、小学校経営が町・村の義務とされたことで、両者の変容が密接に繋がっていたことも説明されました。



○9月2日（火）

◆講師：太多 誠 氏（元石川県立金沢錦丘高等学校教諭）
演題：「かほくの漁業とヤン衆稼ぎ」

明治期から戦前にかけて、かほく市域ではイワシ漁を中心とした沿岸漁業が盛んに行われていました。しかし、その漁期が限られていたこともあり、多くの漁民が北海道へ出稼ぎ漁に行っていました。その中には「ヤン衆」と呼ばれるニシンやホタテの漁場主と雇用契約を結んで働く人もいました。稼ぎが大きかった反面、過酷な労働環境からくる事故や病気により稼ぎを失う者もいたことを当時の雇用契約書等の史料から解説されました。

○9月27日（土）

◆講師：新本 欣悟 氏（小松大谷高等学校講師）
演題：「大谷派僧の北海道移住と免囚保護の父 寺永法専」

「網走監獄の慈父」とも「免囚保護の父」とも呼ばれる寺永法専は若緑村に生まれ、その活動は北海道で今日も面々と受け継がれています。しかし、法専以外にもかほく出身の多くの青年僧が北海道の地で活躍しました。その中の一人として余地出身の寺本敬聞^{きょうもん}を取り上げ、二人の経歴を比較しながら、多くの青年僧が新天地に渡った背景や思いについてお話されました。



○10月7日（火）

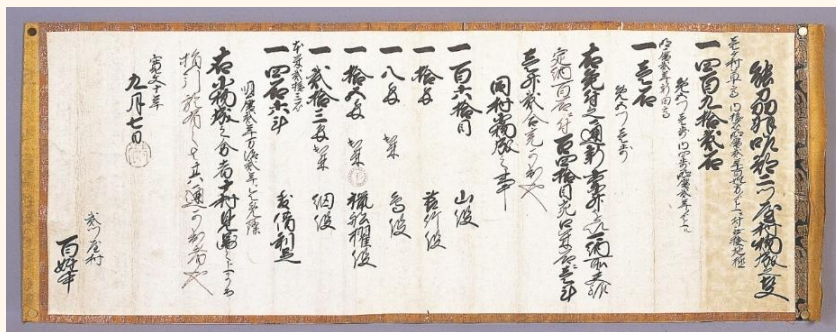
◆講師：本康 宏史 氏（金沢星稜大学経済学部特任教授）
演題：「鶴彬と七連隊赤化事件」

反戦川柳作家鶴彬は明治 42 年(1909)高松に生まれ、新しい感覚で詠む新興川柳の文壇で認められました。しかし、反戦的な作品の作者として逮捕され、早逝してしまいます。講演では鶴彬の生涯について、貴重な写真を交えつつ、特に「七連隊赤化事件」について書かれた文書から、鶴彬の思想の背景や裁判の経緯、刑罰等を詳しく説明されました。

コラム かほく市の歴史お宝

「村御印(ニツ屋村)」 かほく市指定文化財に！

かほく市教育委員会は9月24日、「村御印(ニツ屋村)」をかほく市文化財に指定しました。村御印とは、江戸時代に加賀藩から村々に公布された年貢額を定めた令状で、藩主の印が押された加賀藩独特の文書です。村御印には、年貢の種類や課税率が書かれているため、その村のなりわいや生産力、生活を知ることができる貴重な史料です。かほく市では、今まで確認されている14点の村御印全てが文化財に指定されています。この度、市史編さん事業の調査を通じて、市が所有する「東谷家文書」の中から「村御印(ニツ屋村)」が見つかり、市文化財に指定されることとなりました。



▲村御印(ニツ屋村)

村高及び新田高は493石で、税率が51%、
その他の諸産業に対しては銀で支払います。

中央図書館2階に展示されています。
ぜひご覧ください。

編さん室の歩み(活動記録) 令和7年6月 ～ 9月

6～9月	(寺社) 寺院古文書、石造物調査7回 6/5, 6/19, 6/21, 7/17, 7/25, 8/2, 9/5	6月15日	編さんだより第9号発行
6～7月	(民俗) 古民家調査2回 6/27, 7/15	7月2日	第2回古代・中世部会
6～9月	(民俗) 聞き取り・現地調査14回 6/24, 7/17, 7/24, 8/5, 8/10, 8/15, 8/16 8/18, 8/24, 8/25, 8/26, 9/1, 9/2, 9/7	8月1日	第3回古代・中世部会
6～9月	(近代) 文書、文献、新聞調査12回 6/2, 6/3, 6/25, 7/4, 7/10-12, 7/18 8/9, 8/26, 8/29, 9/11, 9/25, 9/27	8月8日	第1回近代部会
6～8月	(考古) 収蔵庫遺物調査2回 6/14, 8/1	8月17日	第1回考古部会
8月	(集落) 聞き取り調査1回 8/29	8月21日	第1回寺社部会
		8月22日	かほく市出前講座
		8月30日	第1回編集専門委員会
		9月1日	第1回民俗部会
		9月10日	第4回古代・中世部会

お問合せ・資料の提供はこちらまで

〒929-1215
かほく市高松ク42番地1
かほく市高松産業文化センター3階
TEL: (076) 281-3455
FAX: (076) 281-3521
E-mail: shishi@city.kahoku.lg.jp

かほく市史編さん室

かほく市史をお求めの方は
こちらから ⇒

※遠方の方へは現金書留
(送料実費) にて承ります。

